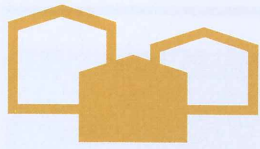


# 重監房資料館だより

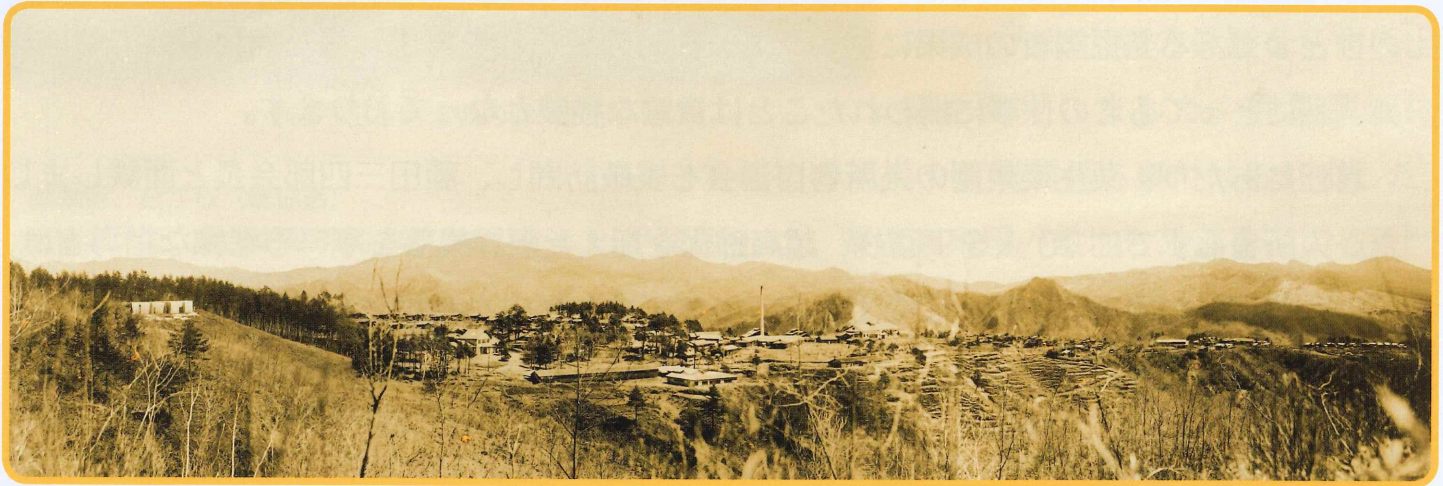


# く り う



# KURIU

## 往時の楽泉園全景パノラマ写真を展示しました。



【昭和27年（1952年）頃の国立療養所栗生楽泉園の全景】

重監房資料館では、平成29年度（2017年度）に行った資料調査で昭和27年（1952年）頃に撮影されたとみられる栗生楽泉園の全景を捉えた3枚の写真を発見しました。遠景に写り込んでいる山並みの稜線や、手前の草木の枝の揺らぎなど、それぞれの写真の縁と縁の絵柄がびたりと一致することから、これら3枚の写真は、同一人物が同一日の同時刻に園の全景を三分割して園の西方の尾根より撮影した組み写真であると断定しました。

未だ撮影者や撮影年月日は不詳ですが、被写体の中に戦後の一時期しか存在しない建物や建築年次が特定できる建物が複数認められ、殊に昭和27年10月15日に建立された妙法会の建物が写っていること、および特別病室

（重監房）以外の2枚は、昭和27年10月28日付の「栗生楽泉園開園20周年誌」の巻頭頁に掲載されており、手前の広葉樹が落葉していることや遠景の山肌に残雪が認められないことなどから、当該写真は昭和27年の秋頃に撮影されたものと推定されます。

この度当館では、開館4周年を記念してこの3枚の写真を合成し、高さ1.2m幅3.6mの大型パノラマ写真パネルを制作しました。開館記念日にあたる4月30日からエントランスホワイエで常設展示し、一般公開を開始しましたのでご来館の節は是非ご覧ください。

【写っている主な場所】

① 特別病室(重監房)	⑩ 精米所	⑲ 浪速ヶ丘(表・裏、自由地区) ※外島保善院の一時避難住宅
② 上地区(病舎地区)	⑪ 中央公会堂	⑳ 第一浴場(栗之湯)
③ 本館(事務棟)	⑫ 大谷光明寮	㉑ ハルナバ舎(旧ハルナバ医院)
④ 医局(治療棟)	⑬ 患者作業場(木工場)	㉒ 栗生ヶ丘(自由地区)
⑤ 分館(事務棟)	⑭ 患者作業場(綿打ち工場)	⑳ 月ヶ丘(千葉寮・自由地区)
⑥ 無医村民一般診療所	⑮ 下地区(自由地区)	㉔ 浪速道路(至：第一農場) ※外島からの避難者が呂久光 明園への帰園にあたり記念 に切り拓いてくれた農道
⑦ 重病舎(病棟)	⑯ 花ヶ丘(自由地区)	
⑧ 汽缶場(ボイラー室)	⑰ 鳥ヶ丘(自由地区)	
⑨ 炊事場(給食棟)	⑱ 川ヶ丘(自由地区)	



## 着任のご挨拶 —重監房資料館に部長ポスト新設—

重監房資料館 部長 黒尾 和久



この度、国立ハンセン病資料館の学芸部が事業部に変更となったことに伴い、6月1日付で前学芸部長から重監房資料館の部長に配置換えとなりました黒尾和久と申します。専門分野である考古学的手法を活かして、ハンセン病対策の歴史検証や、歴史の変遷の中で失われてしまった建造物等の再現に応用し、正確な情報に基づく展示の充実と普及啓発に努めています。

特に重監房は、設計図などほとんどの一次資料が失われた中で、代表的な考古学的手法のひとつである発掘調査の成果に基づいて、往時の建造物を再現し得た点において意義深く、私にとってもこの仕事に携われたことは貴重な経験となっております。

着任にあたり、栗生楽泉園の入所者自治会を表敬訪問し、藤田三四郎会長と面談しました。入所者もすでに70人を下回り、超高齢化を迎えた限界集落を率いる老練な指導者は、92歳とは思えないほどお元気で「我々の生きて来た歴史を後世に伝え、二度と同じことが繰り返されないよう、お互いに頑張りましょう。」と力強い口調でお話ししておられました。

思えば、ハンセン病問題の歴史と現実を多くの人に知っていただくうえで象徴的な建物であった特別病室（重監房）の再現は困難を極めました。伝承以外に資料らしい資料もほとんどなく、材質も寸法も分からない「無い無い尽くし。」のなかで、かつて副会長として藤田会長を支え、普及啓発の拠点施設たる当館の設立を熱望されていた故・弐雄二さん

が、病身に鞭打って東奔西走されていた頃の姿が偲ばれます。

これからも基本法に則り、当事者の皆様の想いを尊重して他の学芸員達と協力しながら、より一層普及啓発に資する活動を続けてまいりますので、重監房資料館をよろしく願い申し上げます。



【藤田会長と固い握手を交わす筆者】



# 門衛所の跡地に古い門柱を屋外展示しました。



【旧門柱と目出標の除幕式】

除幕者、左から（敬称略）

坂本浩之助 国立療養所栗生楽泉園長

黒岩 信忠 草津町長

（重監房資料館運営委員長）

岸 従一 栗生楽泉園入所者自治会副会長

黒尾 和久 重監房資料館部長

いました。彼等は特別病室（重監房）の監守も兼務していました。

昭和18年（1943年）頃に撮影された門衛所付近の写真には、この門柱と目出標（内務省26番柱）が、今も当時と同じ位置にある道祖神や昭和38年（1963年）3月25日の烈風に煽られて倒れてしまった初代香川



【モニュメントとして一般公開】

当館は、平成29年（2017年）に実施した門衛所跡地の発掘調査の際、土塁裏の笹藪内に打ち捨てられていた古い正門の門柱の一部と、湯畑近くの白旗源泉から移転地（楽泉園）まで温泉を引くために敷設された赤松の幹をくりぬいて作った導引管の位置を示す目出標を発見しました。発掘調査に

よって建物の規模や位置関係も裏付けられました。門衛所とは、栗生楽泉園の敷地と外部を区切る正門の傍らにあった通行人の出入りを見張る番人の居た所で、この番人のことを門監（もんかん）または衛視（えいし）と言



【往時の門衛所付近】

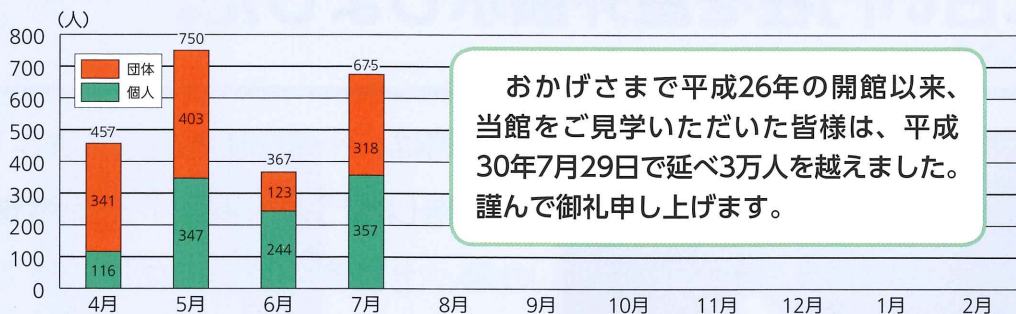
の松とともに写っています。今回発見した古い門柱は、失意の中で特別病室（重監房）に収監されて行く沢山の患者達を見つめていた「もの言わぬ証人」とも言えます。

このモニュメントは、栗生楽泉園の正門を入った右側に屋外展示して一般公開していますので、重監房跡地と併せてご覧ください。



# 平成30年度 来館者統計

平成30年7月31日現在



おかげさまで平成26年の開館以来、当館をご見学いただいた皆様は、平成30年7月29日で延べ3万人を越えました。謹んで御礼申し上げます。

平成30年度入館者数	
延べ	2,249人
一日平均	21.4人
開館以来延べ	30,025人
ホームページアクセス数	
平成30年度	18,177回
開館以来延べ	173,409回

冬季(11月15日から4月25日)は、団体専用期間です。5名様以上のグループで事前にネット予約をお願いします。

## お客様の声(来館者アンケートより抜粋)

- ◎資料が多く残っている間に沢山遺して欲しい。交通の便を切望する。(東京都、75歳・男性、無職)
- ◎先生の話やテレビで見ただけでは伝わらないことばかりだった。皆に伝えたい。(埼玉県、50歳・女性、不詳)
- ◎写真(症例)の展示がないのは人権保護の為か?我々には写真から理解する事も多い。誰もが学ぶべきと思う。(神奈川県、35歳・女性、会社員)
- ◎房内に横たわっている姿はリアリティーがあって良かった。トイレの臭いはどうだったのか詳しく知りたい。布団の厚さも興味がある。(北海道、65歳・男性、無職)
- ◎初めてハンセン病のことを知れて良かった。学校でも活かせそうだ。(新潟県、12歳・男性、小学生)
- ◎もっと多くの人に知って欲しい。バスターミナルから便などあると良い。(東京都、48歳・女性、歯科医師)

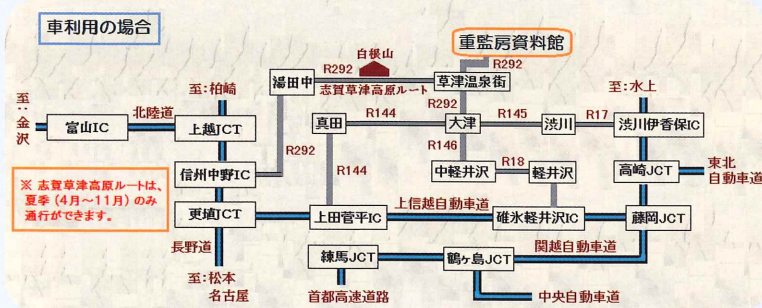
【この他にも、多くの皆様からご感想をお寄せ頂きました。有難うございました。】

## ご利用案内・アクセス

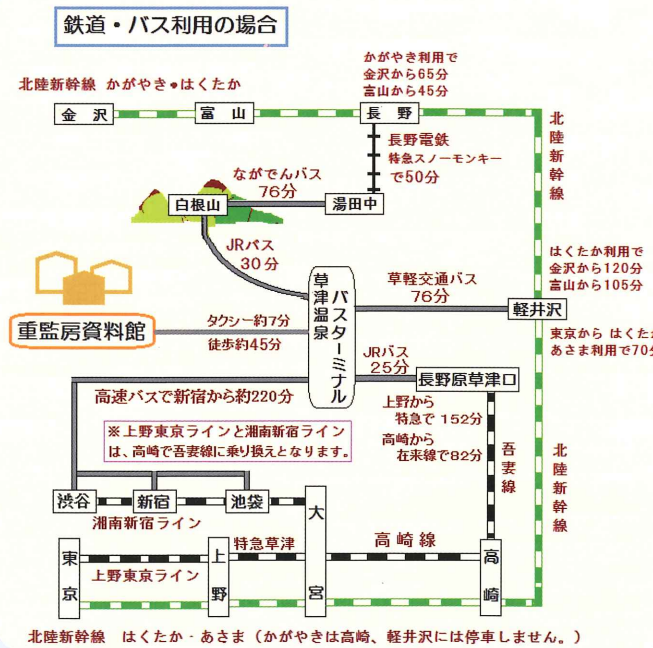
入館料…無料

※個人見学は、4月26日から11月14日の期間となりますのでご注意ください。

区分	フルオープン期間 (4月26日～11月14日)	団体専用期間 (11月15日～4月25日)
受付対象	個人(開館時間内の見学自由) 団体及び学校等(ネット予約制)	団体及び学校等(ネット予約制) ※5名様以上のグループ対象
開館時間	午前9時30分～午後4時00分 (最終入館 午後3時30分)	午前10時00分～午後3時30分 (最終入館 午後3時00分)
休館日	毎週月曜日(祝日の場合翌日) 国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日	



※最新の道路通行規制や列車等の運行状況は関係機関にご確認ください。



## 重監房資料館だより「くりう」第13号【季刊】

発行日：平成30年(2018年)8月1日/企画・編集・発行：重監房資料館

〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根464-1533 TEL：0279-88-1550 URL：http://sjpm.hansen-dis.jp/

重監房資料館はハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指して国(厚生労働省)が設置した国立の資料館で入館は無料です。

